

会 議 録

会議の名称	令和元年度第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（地域魅力アップイベント創出育成事業、産業活性化 プロジェクト促進事業）
開催日時	令和元年8月28日（水） （午前）午後）9時30分 開会 （午前）午後）11時15分 閉会
開催場所	茨木市役所 本館2階会議室
議長	野口 義文 氏（立命館大学産学官連携戦略本部）
出席者	野口義文氏（立命館大学 産学官連携戦略本部）、小牧義昭氏（北おおさ か信用金庫 総務部）、伊津田崇氏（中小企業診断士）、辻田素子氏（龍 谷大学 経済学部）、森本康嗣氏（公募市民） 【5人】
欠席者	なし
事務局職員	徳永商工労政課長、武部商工労政課商工振興係長、 原田商工労政課職員、西居商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業及び茨木市地域魅力アップ イベント創出育成事業補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金募集要領 ・資料2 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業補助金の選考について ・資料3 茨木市産業活性化プロジェクト促進事業 審査基準及び配点表 ・資料4 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金募集要領 ・資料5 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金の選考について ・資料6 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料1～6説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

1件目の株式会社 成田家(以下申請者)から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：このプロジェクトで完成するものは決まっているか。

申請者：アンケート調査を実施し、アンケート結果の中からいくつかピックアップして試作品を作り、試食会を通して1つに絞り込んでいきたい。

A委員：いくつか候補はあるのか？

申請者：候補はある。私の考えと世間の考えとは違うかもしれないので、アンケートを取りたい。

A委員：類似の事業をやっている人は今までいたか。

申請者：茨木では聞いたことがない。

B委員：茨木産のものを使って新しいもの作るとは非常に良いことだと思うが、具体性が見えない。何ができるのかということをお話してほしい。

申請者：例えば、この辺では、お祭りの日や祝い事の日には、すし飯と生ぶしを炊いてほぐしたものを型で押して箱寿司を作っていた。また、どの家庭にも鶏が飼われていて、毎日卵を採って、特別な日には鶏を捌いてすき焼きにして食べた。この2点がソウルフードの候補ではあるが、それ以外にも何かないかを調べたい。

B委員：歴史の講師を招き茨木の料亭文化を紹介する講演会を開催するということが、どういった人を講師として招くのか。

申請者：茨木市の市史編さん室に関わっている方を招く。

B委員：その講演会はみしま館で実施するのか。

申請者：成田家で行う。

B委員：誰を対象としているのか。

申請者：一般市民の方に広く来てもらいたい。

B委員：4回実施して、最後には、茨木のソウルフードとは何かというところまで話を
していくということか。

申請者：はい。

C委員：調査方法について、具体的にはどういったアンケートをとるのか。

申請者：年齢や小さいころ食べていた思い出の料理は何かを聞く。

C委員：来街者アンケートか、在宅者にアンケートをとるのか。

申請者：成田家店頭やみしま館に来店した人を対象にアンケートを取る。

C委員：母数的には、そんなに多く集まらないということになる。意図していないピン
ト外れなものになってくる可能性もあると思うが。

申請書：可能性はある。そうなるようであれば、調整していきたい。

D委員：「ソウルフード」とは何を意味しているのか。

申請者：田舎を思い出す、懐かしい、琴線に触れるような料理のことだとイメージして
いる。

D委員：(事業計画書にある)「歴史めし」や「椿の本陣御膳」は御社独自のものか。

申請者：前者は独自のもの、後者は茨木市とのイベントで実施したもの。

D委員：開発した後、現在の展開はどういった状態なのか。

申請者：イベントで出したりしている。

D委員：今回はレシピを公開して、市内での普及を目指しているのか。

申請者：最終的に市内の飲食店でどこでも同じメニューが楽しめるようになればいいと
思う。

D委員：商品を開発して、それを缶詰やレトルトパックに入れて販売するのではなく、
市内の飲食店に行けばそのメニューが楽しめるという状況にしたいということ
か。

申請者：そのとおり。

E委員：どこかの大学から知見を得たりはするのか。

申請者：得たいと考えている。

E委員：アンケートや試食会で「こんな味にしてほしい」という意見があったら、それ
に合わせていくつもりか。

申請者：合わせていくつもりであり、そうすべきだと考えている。

(2) 産業活性化プロジェクト促進事業申請案件：

2件目のStudio オレンジアゴーゴー(以下申請者)から、事業概要及びアピールポ
イント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：800部発行するとのことだが、もっと欲しいと言われた際に、やはり増刷は
しないのか。

申請者：そこは迷ったが、希少価値を付けたいので、あえて増刷はしない。

C委員：モデルと店舗はどのようなプロセスで決定するのか。

申請者：店舗については、様々な業種に聞き取りを行い、その時点で参加の意思を表明した店舗を優先的に採用し、業種が重複しないようにした。モデルについては、一般公募し、応募者の中で衣装合わせ等の打ち合わせに来られる方を優先して採用した。

B委員：マスコミにこの取り組みを掲載してもらうように何かしているか。

申請者：HPとSNSで発信することで、マスコミが興味を持ってアプローチしてくれると考えている。

B委員：モデルについては、茨木市内の大学の学生を対象としているのか。

申請者：茨木市に在住、在学している学生を対象としている。

B委員：うまくいったとして、今後、部数を増やすということも考えているか。

申請者：今回は販売をせず、貴重な非売品として価値を高める。今後については今回の取り組みへの反応を見て判断する。

D委員：コンセプトは今回に限ったものか。

申請者：来年以降は着物ではなくなるかもしれないが、「レトロビューティー」というコンセプトはなくしたくないと考えている。

D委員：和装にはこだわらないか。

申請者：たとえば、洋装でもレトロビューティーとして捉えられる。

D委員：今後も成人に限定するのか。

申請者：年齢層については、今回のモデルの反応も踏まえて今後検討する。

D委員：カレンダーは12か月であり、季節によって風景も異なるので、季節ごとに撮影を行うのが常であるが、今回はどうするのか。

申請者：本来はそうすべきだが、今回は屋内施設をうまく使用し、演出をすることで季節感を出す。今後については検討する。

E委員：HPやSNSで広報等行うとのことだが、データをダウンロードできるようにするのか。

申請者：ダウンロードについては考えていない。

E委員：インバウンドに関連して、英文も同時に掲載するなど、今後考えられてはどうか。

申請者：できればやりたいと考えている。予算と時間との兼ね合いでどうするか検討する。

(3) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

IR+OIC フェスタ実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A委員：2度目の申請だが、前回申請時との変更点を教えてほしい。

申請者：1点目に、一般の飲食店様には、同日開催のAsia Week 2019に出店してもらい、餃子関係の出店者様には、こちらが開催する餃子まつりに参加してもらうことで、餃子に絞ることになっている。2点目に、茨木の農産物を「大阪産（おお

さかもん)」として、大阪府に取り上げてもらってPRすることで協議している。
3点目に、ステージイベントをIR+OICフェスタでは実施しないこととした。

A委員：今回の出店数は、合計20店舗という認識で合っているか。

申請者：マルシェが3店舗、全国餃子が5店舗、大阪餃子が15～20店舗で考えている。

A委員：出店料はとるのか。

申請者：現時点では取る予定はない。

A委員：支出の委託料がとても大きい。

申請者：テントの設営と看板等のインフラ整備について、支出が大きくなると見込んでいる。

B委員：10月13日（日）開催は決定しているか。

申請者：今回仮に補助金審査で不採択となっても、開催する予定。

B委員：餃子にこだわった理由はなにか。

申請者：大阪といえば粉ものであり、粉ものには餃子ももちろん含まれる。また一昨年の統計で、全国の餃子の消費量ランキングにおいて堺市が3位になっており、全国に大阪餃子をアピールすべきであると考えている。また、市内では餃子のお店が増えており、市民が餃子を受け入れていると考えられる。以上のことから、餃子にこだわっている。

B委員：出店してもらおう店舗はもう決まっているのか。

申請者：2店舗ほど決まっているが、他はまだ決まっていない。

B委員：屋外で焼き餃子をするのか。保健所との協議は済んでいるか

申請者：まだこのイベントについて協議はしていないが、これまでに経験もあるので、対応は可能であると考えている。

C委員：本日配布されたレイアウトの資料は今回のイベントのものか。

申請者：5月に立命館大学にて開催されたイベントのものだが、今回のイベントでもほぼ同様のレイアウトでの開催を考えている。

C委員：PRについて、イベント開催まで1か月程度だが、準備は進んでいるか。

申請者：現在、ポスターについては協議中であり、9月13日までに仕上げる予定。フェイスブックについてはすでに開設しており、HPについては、簡単なものであるが開設できるように準備している。基本的には市内の店舗に掲示等を依頼する予定ある。

D委員：万が一補助金審査で不採択となった場合、どのように資金を手配するのか。

申請者：出店者様にインフラ整備に関する料金を負担してもらう。

D委員：その場合、出店を取りやめる店舗が出てこないか。

申請者：出店料としてではなく、実費としてのレンタル代金を負担してもらうだけなので、取りやめられることにはならないと考えている。

D委員：事業計画書において、ビジネスマッチングについて記載されているが、今回開催するのか。また、これはどのようなものか。

申請者：次年度以降に実施する。市内の生産者様と食品事業者様を一堂に会して、展示会を開催しようと考えている。

D委員：次年度以降も餃子を主としてイベントを開催するのか。

申請者：今のところは餃子を主として開催しようと考えている。

E委員：Asia Week 2019の一環としてイベントを開催するのか、並行して同日開催とするのかどちらか。

申請者：警備関係についてはAsia Week 2019 実行委員会の下に弊実行委員会が入る。開催としては並行して開催することになる。パンフレット等の広報は個別で実施する。

E委員：看板店員コンテストとは何か。

申請者：事業計画書に記載しているが、今回は実施しない。

【 審 査 】

5 審査結果

(1) 株式会社 成田家

500点中 328点 ⇒ 採択案件候補

(2) Studio オレンジアゴーゴー

500点中 412点 ⇒ 採択案件候補

(3) IR+OIC フェスタ実行委員会

500点中 329点 ⇒ 採択案件候補

<選考基準>

出席委員の評価点合計の65%以上を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の1/2 (100点×1/2=50点)

以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上